

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	COVERT TANK	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボール
RG	2.500	△RG	0.051	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：COVERT TANK**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

**比較対照ボール：COMBAT TANK**

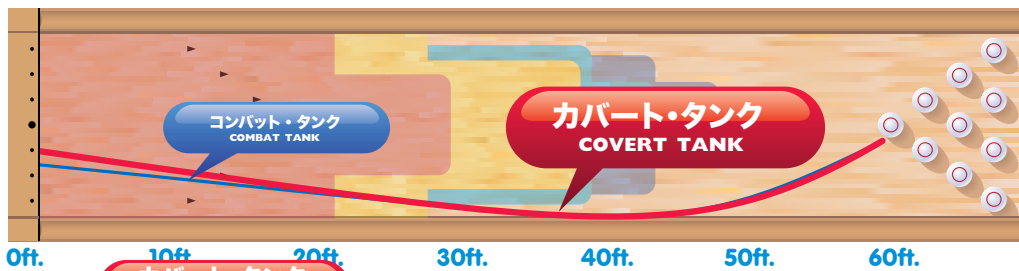
フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

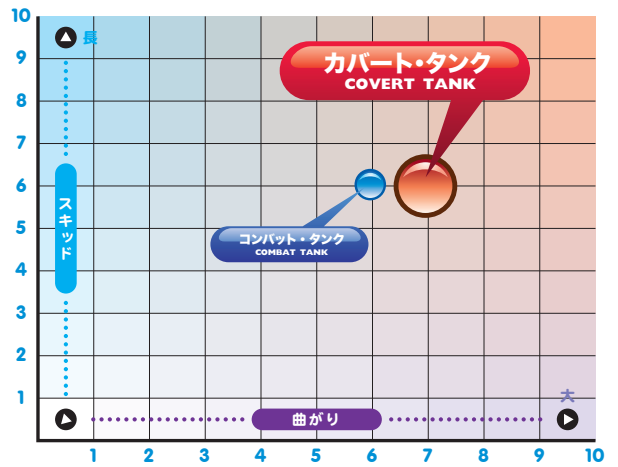
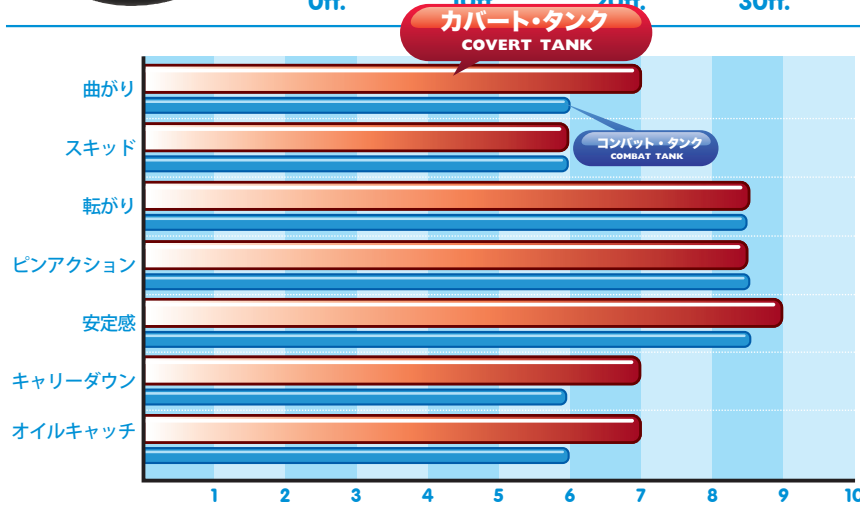
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

今日におけるボウリングの優位性は、高性能で性能が使い分けられ、コントロールできるボールを持つことも一つの可能性だと思えます。従来の反応の高いリアクティブのボールはオイル上でより高い摩擦と反応を出すことで曲がりと同時にオイルを吸収します。一方反応性の低いウレタンボールはオイル上で低い摩擦と非吸収性で反応は低く、緩やかな弧を描きます。今回Covert TANK用に開発された革新的なFriction Microcell Polymerは、ウレタンでもなくリアクティブでもありません。マイクロセルポリマー素材です。従来のウレタンは実質的に非吸収性ですが、リアクティブは高吸収性です。Friction Microcell Polymerはリアクティブの吸収速度をとでも遅くした速度で吸収することができる素材です。実際投球しながらボールの付着したオイルを観察すると拭き取るまでオイルはボールに留りますが、ウレタン素材と違うのは拭き取れ感が全く異なります。高吸収素材のようにオイルがボールから吸収されてなくなることがなく、非常に遅い速度でオイルを吸収することができます。一般的なウレタンボールは主に高回転のボウラーが好んで使用する傾向がありますが、Covert TANKはFriction Microcell PolymerとTorxコアとを組み合わせているため、より多様なプレースタイルに役立つ汎用性の高い仕上がりだと思えます。より高い△RGは多くのトラックフレアーを生み出し、それはバックエンドの動きのイメージも変えています。今まではウレタン素材を使うためにやや遅めのコンディションで使用するイメージを持っていましたが、このボールを持つことでウレタンのイメージを持ちながら通常のコンディションをマスターできる、ウレタンの弱点部分の克服とさまざまなボウラーに使用して頂けるボールだと思えます。ウレタンのように感じて投げてもライン取りをすると明らかにウレタンとは違います。曲がりの落ち着きはウレタン、オイルの感じ方はウレタンほど弱くなく、不思議な感覚のボールです。

### 特記事項

**MOTIVから新しい次元のカバーFriction Microcell Polymerの発売です。ウレタン素材のような優位性でパフォーマンスを高めた可能性が広がるボールです。**